

2004年1月21日

工学部教務委員会・企画WG

## 工学部学習・教育目標案

### 教育理念

工学部においては、学生の真摯で切実な要望により本学が設立されたことを認識しつつ、公正・自由・自治という校是で謳われている精神に従い、現代社会の諸課題を洞察するための公正な人格を持ち、真に自立し、生涯にわたって継続して自己の能力の向上をはかり、地球的視点から国民生活の向上と人類福祉の増進に貢献する、実務の中核を担う技術者を育成する。

### 学習・教育目標

以下の能力等を獲得することが学生の学習目標であり、それらを学生に獲得させることが教員の教育目標である。

1. 日本語能力（技術文書作成、討議、プレゼンテーション）
2. 英語能力。特に、英語をコミュニケーションツールとして利用するための基礎能力
3. 豊かな教養と公正な人格
4. 技術者としての使命感、倫理観の理解など、技術者として必要な教養
5. 数学・自然科学に関する知識とその応用能力
6. 人工言語、図的表現、情報利活用を含むコンピュータに関する知識・技能とその応用能力
7. 専門の主要分野に関する知識・技能とその応用能力
8. 修得した知識、技能および情報などを駆使して、工学を中心とした課題を解決する能力
9. 自主的・継続的に学習する能力

### 卒業要件

分類	現行単位数	改定後の単位数
教養科目	12	12
体育	2	
外国語	6	10
工学教養	0	10
専門基礎	24	0（専門に含む）
工学基礎	0	20（専門基礎の一部を含む）
専門	60	60（専門基礎の一部を含む）
自由選択	20	12
合計	124	124

## 教養科目と体育科目の分類統合

学生にとってより魅力ある教育を競争的に提供する。

## 外国語

従来の必修科目（6単位、6科目）に選択必修（4単位、4科目）を加えて10単位を卒業要件とする。

## 工学教養

技術作文、プレゼンテーション技法、技術者倫理基礎を必修科目として含める。カリキュラム編成委員会を設置する。科目案として、

## 専門基礎

真に専門の基礎科目は専門科目に移行する。

その他の科目は、複数学科に共通の科目として、工学基礎科目に移行する。

## リメディアル教育

数学、物理、化学について、入学時到達度試験により、その学力が不十分で補習を必要とすると判定された学生は、そのように判定された科目ごとに、4単位までリメディアル科目を履修しなければならない。リメディアル科目の単位数は、学生ごとに0単位から12単位となる。

## 工学基礎科目

到達度別の授業を実施する。そのために、学科ごとの時間割を廃する。カリキュラム編成委員会を設置する。専門学科教員も分担する。

## 専門

コア科目の徹底した教育

## 工学部将来構想委員会

委員長：工学部長

委員：工学研究科長、大学院教務委員長、教務委員長、入試企画委員長、就職連絡協議会議長、学生部副部長、工学部長が指名する若干名

任務：工学部の中期構想を検討し、その具体策をまとめ、各部署へ検討課題として提案する。

サブグループ：入試、教育、研究、学生、大学院、就職

## 工学教育改善委員会設置

JABEE 情報交換会を発展させて、委員会として立ち上げる。

## 学門制

第一学門：建築、機械、機械システム、

第二学門：機械システム、環境エネルギー、システム情報

第三学門：コンピュータメディア、システム情報、電気電子情報

第四学門：建築、環境エネルギー、機械、都市基盤

第五学門：コンピュータメディア、電子通信、電気電子情報

## 学群制

第一学群：機械、機械システム

第二学群：電気電子、電子通信

第三学群：コンピュータメディア、システム情報

第四学群：建築、環境エネルギー、都市基盤

1年次の専門を2年次・3年次に移行する。

1年次は、教養、英語、工学基礎、工学教養、リメディアルを中心とする。

各分野に関する概論科目を配して、学科選択のための情報を提供する。